

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2023年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)	
工期	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日	作成者	中林 泰彦
作業名称	コンクリートシール打設		作業手順書	作成年月日	
使用機械 使用設備	4tユニック(2.9t吊り)、2tトラック、ライトバン、バックホウ、敷鉄板		改正年月日		現場責任者
使用工具、機器	鍍、ほうき、スコップ、型枠、石頭ハンマー		協力会社	会社名	
保護具	(刃物作業時は耐切創用)		協力会社責任者	自筆サイン	
材料			作業順序		
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す			1	事前準備	
作業人員	合計 名		2	現地確認	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日	3	作業ヤードの確認	
	(役別を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)		4	資機材搬入	
			5	瀝き取り	
			6	型枠設置	
			7	打設	
			8	脱型、清掃	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
リスクレベル	5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知					

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業者へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
ケーブル等周辺安全確認 (埋設物・構造物)		管理用図面で事前確認	図面がないケーブルが確認された場合、作業を中断し、担当者へ報告すること。						
作業ヤードの確保 (責任者、作業員、保安員)	作業開始前に、作業現場周辺のヤードをカラーコーン、コーンバーにて仕切る	お客様の通行に支障をきたさない作業ヤードの確認	動線を塞ぎ、お客さまの通行に支障をきたさず	△	△	△△	3	公	作業前にお客様の動線をしっかりと確保し、作業に必要な以上の範囲を取らない。
資機材搬入 (責任者、作業員)	主材料の搬入をユニックレーンを用いて搬入・移動する	玉掛作業及びクレーン作業時の作業範囲の確認	構造物及び作業員との接触。玉掛け作業不備に伴う積み荷の落下。	△	×	△×	4	安	作業前に有資格者の確認。旋回範囲の確認を実施し定格荷重以下の作業を実施する。
	バックホウを使用して敷鉄板を既設する。	周囲確認	敷鉄板の下敷きになる	△	×	△×	4	安	旋回範囲の確認を実施し定格荷重以下の作業を実施する。
瀝き取り (責任者、作業員)	バックホウを使用して瀝き取りを行う	作業範囲の確認	作業範囲に不用意に立入接触する	△	×	△×	4	安	作業範囲をラバーコーンで囲い、操作者、指揮者以外立ち入らない
型枠設置 (責任者、作業員)	コンクリート打設箇所に型枠を設置する	設置位置、通りの確認	木杭、釘等を使用する際、手元足元を怪我する。	△	△	△△	3	品	既設構造物が近い箇所は人力にて作業する
	打設 (責任者、作業員)	一輪車等を使用しコンクリートを打設する。	品質確認	不良の材料で打設し、仕様書のきていを満たさない。	△	△	△△	3	品
脱型 (責任者、作業員)	鍍を使用仕上げる								
脱型 (責任者、作業員)	型枠脱型時は、ハンマー等を使用して撤去を行う。	手元注意、落下注意	木杭、釘等を使用する際、手元足元を怪我する。また型枠材の落下に十分注意する	△	△	△△	3		撤去時は、型枠材を多く撤去せず小分けにして撤去運搬を実施する。ハンマー使用時も手元の確認を実施
後片付け (責任者、作業員)	バックホウ、ユニックを使用して敷鉄板を回収する。	周囲確認	敷鉄板の下敷きになる	△	×	△×	4	安	旋回範囲の確認を実施し定格荷重以下の作業を実施する。
	清掃	破片、工具等が残っている							工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事
リスクレベル	5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知								